

PORT SAPIE

ほるとさびえ

vol.
26
2013.August

ほるとさびえ 2013.August Vol.26

函館大学広報誌VOL.26 発行/函館大学広報誌編集事務局

特集

地域や社会人と連携した共同教育・共同作業

教育力を高め、 実践的教育を推進

学長インタビュー

学長 溝田春夫

平成24年度就職実績

充実した就職支援・指導により、
前年度を上回る実績



1年間の主な行事日程

2013年

4月	5日	第49回入学式
	8日	新入生歓迎イベント
	9日	1年次オリエンテーション
	11日	前期授業開始
	15日	第1回就職ガイダンス(3年次:以降17回実施)、第1回キャリアガイダンス
6月	3日	進路相談(3年次)
	10日	第2回キャリアガイダンス
7月	8日	第3回キャリアガイダンス
	8日	協学会地区懇談会(秋田)、協学会地区懇談会(横浜)
	30日	前期授業終了
	31日	前期試験開始(～8/6)
8月	1日	AO入試(A日程)面談申込受付開始(～9/30)
	3日	オープンキャンパス(第1回)
	7日	夏季休業開始
		3年次インターンシップ研修会(～9/20)
	24日	協学会地区懇談会(函館)
9月	25日	協学会地区懇談会(札幌・青森)
	2日	協学会地区懇談会(青森)
9月	4日	協学会地区懇談会(盛岡)
	19日	学園創立記念日
	20日	夏季休業終了
	24日	後期授業開始
10月	28日	オープンキャンパス(第2回)
	1日	就職内定公示
		AO入試(B日程)面談申込受付開始(～12/25)
	13日	大学祭
	14日	第4回キャリアガイダンス
11月	26日	試験入試(特別奨学生の選考を含む)(A日程)
	11日	第5回キャリアガイダンス
	23日	指定校推薦入試、一般推薦入試、 専門学科・総合学科推薦入試(各A日程)、編入学試験(A日程)
12月	7日	本学主催業界研究会・就職懇談会(函館)、第6回キャリアガイダンス
	24日	冬季休業開始

2014年

1月	6日	AO入試(C日程)面談申込受付開始(～3/24)
	14日	冬季休業終了
	15日	後期授業再開
	31日	後期授業終了
2月		卒業論文提出締切(1/30～)
	3日	試験入試(特別奨学生の選考を含む)(B日程)、編入学試験(B日程)、 社会人・シニア入試、後期末試験(～2/7)
3月	1日	春季休業開始
	10日	指定校推薦入試、一般推薦入試、専門学科・総合学科推薦入試(各B日程)
	16日	第46回卒業式
	24日	試験入試(C日程)
	26日	春季休業終了
	27日	2・3年次オリエンテーション
	28日	2・4年次履修登録
31日	3年次履修登録	

函館大学 広報誌編集事務局

〒042-0955 函館市高丘町51番1号
TEL(0138)57-1181 FAX(0138)57-0298



学長 溝田 春夫

数年間までの大学教育は座学が中心でした。しかし近年、社会が即戦力の人材を求める流れから、実践的教育の導入が求められるようになってきました。函館大学ではこのニーズに応え、いち早く実践的教育をカリキュラムに組み込むほか、さまざまなプロジェクトを立ち上げ、社会に適應した人材育成に力を注いでいます。各取り組みについて、溝田春夫学長にお話を伺いました。

実践的教育を推進し、 社会で活躍できる 人材育成

――函館大学が実践的教育プログラムを推進する狙いとは？

学長 ●座学は知識を蓄え学習体系を理解するために大切な授業ですが、どちらかと言えば学生は受け身の立場です。そこで、積極的な参加意識を促し、社会で商学がどのように関わっているのかを体験的に理解してもらおうということが狙いです。さらに、大学は孤立したのではなく、近年は社会とのつながりが重要視されています。受け身ではなく、学生が地域に出て自主的に動き、体験することで「学ぼう」という気持ちも強くなるのです。

――実践的教育プログラムの商学実習は今年度で四年目を迎えました



学長 ●これまで度々マスコミにも取り上げていただき、学生も自分たちの活動が公表されることで、やりがいを持って取り組んでいるようです。大学も学生自身が生き生きと生きてきたという手応えを感じています。導入

当初は、取り組み方なども試行錯誤していましたが、年を重ねることに方向性が固まり、最近では地域のほうから「これを調べてほしい」などの問い合わせが出てくるようになってきました。これからは、もつとさまざまな提案をこちらからできるようにしなければと思っています。

――さらに昨年度からは、新たな取り組みとしてSDプロジェクトも始動したそうですが？

学長 ●こちらも地域との関わりを重視して行っているプログラムです。本学の職員と学生が一緒になって、地域のさまざまな課題に取り組んでい

ます。こちらは大学の単位とはならないプロジェクトなのですが、気軽に提案して取り組めることがメリット。軌道に乗れば授業やゼミなどで取り上げることもできるのかなと考えています。その試みとしての観点から見ると、とても意味のある取り組みであると思っています。

――そして教育の場の拠点づくりとして、西部地区にサテライトを設置したそうですが？

学長 ●はい。これは文科省の補助金を受けて実施した事業です。建物は函館観光の中心地にあるベイエリアに、今年四月にオープンしました。



これまで、学生はベイエリア地域でアンケート調査を行い、大学に戻ってからデータ整理などをしていました。そこで、現地に拠点を作ることで効率が上がります。さまざまな活動ができることを考え、サテライトを設置しました。

――サテライトはほかにもさまざまな活用方法を考えているのですか？

学長 ●大学の授業はもちろん、講演会や公開講座の開催場所としても考えています。さらに、いずれは他大学の学生や地域の方、観光客にも使っていただき、ここで幅広い交流が

生まれることを期待しています。

――さまざまな実践教育を行うことで、学生たちに期待することは？

学長 ●やはり、自ら積極的に取り組む姿勢を身につけてもらうことです。SDプロジェクトは単位にはなりません(笑)、勉強になると思えます。そして、当学園には関連校がありますので、学園の総合力を発揮できるテーマを考えてやっていくことも大切だと思っています。

――今後、函館大学が目指すところは？

学長 ●学生がもつと楽しく勉強や研究に取り組めるような環境づくりをしていきたいと考えています。現在、日本は国際的に見ると将来が心配されていますが、これからの日本の経済、社会の発展に貢献できる人材を育てていけるよう、教職員が一体となって「学生のためになること」を推進していきたいですね。今の時代、大学も変わっていくなければなりません。進学を目指している学生たちが、「この大学でこれを学びたい」と思ってもらえるよう、私たちはこれからも、より良い方向へと進める努力をしています。

ほるとさびえ

Vol.26 | 2013 August

「ほるとさびえ」は、ラテン語のポルトス(港や門を意味します)とサビエンティス(知恵や英知を意味します)を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。



表紙 / ハマナス咲く啄木小公園と立待岬

Contents

- 学長インタビュー(溝田 春夫)
実践的教育を推進し、
社会で活躍できる人材育成……………1
- 特集 教育力を高め、実践的教育を推進
ベイエリアに函館大学のサテライト
「Co-Working, Co-Learning Cafe
(ココカフェ)」……………4
- 「SDプロジェクト」
HIFプロジェクト……………5
- がごめスイーツプロジェクト……………6
- 歯がよいはこたてプロジェクト……………7
- 三つ星レストランプロジェクト……………8
- 商学実習I・IIテーマ一覧……………9
- 函館大学の教育&オープンキャンパス……………10
- 平成二十四年度就職実績
充実した就職支援・指導により、
前年度を上回る実績……………11
- がんばる社会人一年生・インターンシップ体験……………12
- 出身校紹介
北から南から……………13
- FROM THE WORLD
アメリカ(ハワイ)と中国(天津)からの
留学生が将来の夢を叶えるため、
函館大学で学んでいます……………15
- 函大ing CLUB TOPICS
チームづくりを進め、「守って速攻」で全国で勝つ
ハンドボール部……………17
- 昇格目指し、部員一丸となって戦います
サッカー部……………17
- 目標は高く。今年は「厳しさ」をテーマに。
硬式野球部……………18
- 地域貢献・社会奉仕を通じ、リーダーとなる人材を育成
ローターアクト部……………18
- CAMPUS REPORT
短期語学研修制度座談会……………19
- 新入生歓迎イベント……………20
- 平成25年度の公開講座……………21
- 平成24年度 学校法人野又学園 決算書……………21
- 授業アラカルト
「経営組織論」専任講師 中井 郷之先生……………22

【特集】
教育力を高め、実践的教育を推進



函館大学事務局長 野又 淳司さん

今の時代、大学生には主体的な学び、能動的な学びをすることが求められています。函館大学は、地域で活躍できる人材の育成を目標にしていますので、地域の方と学生が関わっていくイメージを持っていました。

本学では、観光やまちづくりを研究テーマとして取り上げる学生が少なくありませんが、観光の中心地であるベイエリアには、学生が調査活動をする際の拠点があれば、さらに質の高い研究成果が出てくるのではと、かねてから考えていました。ホレンガ倉庫群で有名な金森商船株式会社との渡邊社長は、本学の卒業生でもあるのですが、教育に理解をいただき、旧金森船具店という明治43年築の景観形成指定建築物にもなっている施設をお借りすることになりました。この建物にインスパイアされて事業の構想が広がり、「観光を題材とした、大学生と社会人の共同作業、共同学習の場の創出」というテーマで平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業として採択されました。現在、大学ではこの施設を授業などで活用しており、今後は本学以外の大学生、社



商学実習や社会調査といった授業にも活用しています。



サテライトは旧金森船具店の1階部分を利用しています。

情報発信、交流ができる
魅力的な場所に

函館大学は今年四月、旧金森船具店(函館市景観形成指定建築物)の建物を利用して「函館大学ベイエリアサテライト(愛称:「ココカフェ」)をオープンさせました。ココカフェは大学生と社会人の交流が生まれる拠点として、地域からも期待が寄せられています。

会人の方にも使ってもらえるようにしたいと考えています。函館は市民活動も活発で、リーダーシップにあふれている人も多く、よい企業もたくさんあります。そんな人々と交流ができれば、学生にとって良い刺激になります。また、逆に学生と交流を持ちたいと思ってる社会人もたくさんいらっしゃると思いますので、私たちもさまざまな活動を通じて、気軽に交流できる場にしていきたいと思っています。交流によって、学生は函館には素晴らしい人たちがいることに気付

き、「自分もこの人たちのように函館で頑張りたい」と思うようになるでしょう。それが函館の活性化につながっていくことも期待しています。今後はココカフェをさらに魅力ある場所とするために、市民団体の活動の資料や、函館を舞台とした映画、ドラマCMなどの映像をライブライリー化して教育研究に役立てるなど、情報発信機能の確立も図り、市民、観光客に訪れてもらえるようにしていきたいと考えています。

ココカフェ

ベイエリアに函館大学のサテライト
「Go-Working, Co-Learning Cafe (GPRHC)」

「特一集」
地域や社会人と連携した共同教育・共同作業

教育力を高め、
実践的教育を
推進

函館大学ではいち早く実践的教育を取り入れ、商学教育の質を高めていく取り組みを推進しています。教育力・教師力を高め、学生の満足度の向上、就職への優位性の確立を目指すことを目標に、学生が地域に目を向けてさまざまな課題に取り組んでいます。



SDプロジェクト

新たなプロジェクトが始動 「SDプロジェクト」

平成二十四年度、函館大学では新たなプロジェクト企画を始動させました。それが「SDプロジェクト」。職員と学生の共同プロジェクトであり、学生たちがグループで自主的にさまざまなテーマに取り組んでいます。

HIFプロジェクト



コーディネーター
木村 仁さん

積極的な姿勢で自己を高めてほしい

日本人と外国人とは、やはり味覚が違います。そこで、函館の食文化の国際化を応援しようと考案したのが「HIF(函館食の国際化)プロジェクト」です。

世界にはさまざまな食文化があり、函館には留学生をはじめ、多くの外国人が訪れます。外国人の方が安心して食事ができる環境を整えば、函館の新たな魅力になると考えました。

そこで、本プロジェクトでは「外国人観光客の誘致および長期滞在」、「市民文化教育水準の向上」、「海外商取引等のビジネス機会の創造」を達成目的としました。プロジェクトメンバーの学生は、ホテル・飲食・観光業界などから講師を招いての勉強会、留学生をターゲットとした賞味会やホストファミリーへの料理講習会など、さまざまな活動を行っていきます。

プロジェクトを通して学生たちに学んでほしいことは、受け身ではなく、自分から積極的に動くことの大切さです。そして興味を持つこと。これはそのまま実行力へとつながっていくからです。

がごめスイーツプロジェクト



コーディネーター
伊藤 拓也さん

本物のビジネスにふれる機会 貴重な経験を今後に生かして

「がごめ昆布」は函館の特産品のひとつ。このがごめ昆布を使った商品開発を行っていくというのが「がごめスイーツプロジェクト」です。がごめ昆布の特徴はねばり成分にあります。この成分が身体によいと言われており、本学のグループ校である函館短大付設調理製菓専門学校では、がごめ昆布からねばり成分を取り出し、ゼリー状に固める技術を確立しました。本プロジェクトではその技術を活用し、最終的にはスイーツあるいは本格的な料理としての商品開発を目指しています。

プロジェクトのスタートとしては、まず、がごめ昆布のことは知ることが大切であることから、学生に函館市内の昆布店さんや販売店さん、さらには専門学校の先生のところを訪れて知識を蓄えるためのお話を聞



商品開発では企業を知ることも大切。

さらに、本プロジェクトでは学生が直接に企業の方々と関わりを持つことができます。実際に企業の仕事の流れを自分の目で見ることで企業を知ることができ、これを今後の就職活動などにも生かしていってもらいたいと願っています。外へ出るとさまざまな発見があります。座学で学んだ知識を生かす実践の場として、本物のビジネスに近い形の経験をしてもらいたいですね。

自分の目で見て経験したことは 将来へとつながっていく



プロジェクトメンバー
田上 啓太くん

僕は商学を勉強したいと思って函館大学に入学しました。企業と関わりを持って、この貴重な機会は将来のためにいい経験になると思います。さらに本プロジェクトでは経営、マーケティングなど、さまざまな実践経験ができるほか、商品開発にまで携われるということも大きな魅力でした。

本プロジェクトメンバーの学生は僕を含めて四人います。僕ら学生たちは、単に思いついたアイデアを出すだけではなく、売れる商品“というものを考えながら商品開発を行っていくかなければなりません。みんなで意見を出し合いながら、より良い提案ができるようプロジェクトを進めていきたいと思っています。

さらに今回のケースは市場を見ただけでなく、企業のあるさまざまな事情を考慮した上でアイデアを出していかなければなりません。その点が難しいところでありアイデアは実現可能でなければ意味がないのです。ですから、大学で学んだことを生かしながらも、

函館の良さを留学生にも 知ってもらいたい



プロジェクトメンバー
佐々木 孝太くん

自ら学ぼうとする動きは、必ず自分の身となり、今後のさまざまな活動を行う中でプラスとなって生きていくはず。思考錯誤の連続で「苦しい」と思うこともあるかもしれませんが、自己を高めるために目標達成に向けて進んでいってもらいたいですね。

決めたりにしています。それぞれに調べることは異なりますが、関連することはお互いに協力し合って進めています。さらに北海道国際交流センター、学園系列校の函館短大付設調理製菓専門学校と連携を取りながらやっているのですが、この経験は大学の授業にも生かされています。

今後は調査結果を分析して、留学生に好まれる料理を提案し、実際に留学生に食べてもらう賞味会や、ホストファミリーへの料理講習会を実施していきたいと考えています。そして、プロジェクトにご協力いただいた方々をお呼びして、調査結果の発表会をする予定です。



まずは知識を得ることから。勉強会には楽しく真剣に。

それで足りない部分は企業をしっかりと見ること埋めていきたいと思っています。

プロジェクトではグループで行動しているため、ディスカッション力も身に付いてきました。しかも、学生は男女二人ずつであることから、お互いの目標で見ることで、とても勉強になります。

さらに、企業の方々と接することにより、社会人に必要なことを身をもって学ぶことができました。企業はどのように商品開発を行っている、それがどのように市場へと出て行くのか？そして、商品を考える時には、どのような視点を持つことが大切になってくるのか？座学で学んでも、実際に社会へ出ると企業によつてさまざまなケースがあります。それが経験できることを嬉しく思いながら、メンバーはみんな真剣に取り組んでいます。たくさんの方々の場所でも販売してもらえそうな商品が開発できるよう頑張ります。



街へ出て、土産物の傾向を調査。

特集 | 教育力を高め、実践的教育を推進

特集 | 教育力を高め、実践的教育を推進

歯がよいはこだてプロジェクト



コーディネーター 竹山 久芳さん

食へ物をおいしく食べてもらえる地域づくりを目指して

人間は年をとると歯が弱くなり、多くなります。そこで、歯が弱くなるとお年寄りの方に、「少しでもおいしいものを食べてもらうための料理を探り当てよう」というのがこのプロジェクトの狙いです。さらに、料理を考えるだけでなく、予防歯科の進展に寄与することも目的として掲げています。

本プロジェクトは昨年十月にスタートし、今年度中に調査結果として、試食会の開催まで目標としています。その定めた目標に向け、本学の学生がプロジェクトメンバーとして行動し、グループの函館短大付設調理製菓専門学校、さらに函館短大付設調理製菓専門学校、さらには歯の先生に協力し、函館歯科衛生士専門学校の先生に協力、アドバイザーをいただきながら進めています。現在はメンバーの学生たちが函館市役所や老人ホームなどを訪れ、歯や食事について

三つ星レストランプロジェクト



コーディネーター 高橋 勝美さん

三つ星レストランを作ることで食育ができる街づくり

この「三つ星レストランプロジェクト」のサポーターとして掲げているのは「レストランを中心とした食育」です。お子さんをお持ちのご夫婦にレストランで食事をしていただき、その間、保育園がお子さんを預かって食育を図るような仕組みを作りたい。こうというのがこのプロジェクト。

三つ星レストランを作るには、お店が努力するだけでなく、お客となる人の料理に対する関心も高めなければなりません。そこで、長期的な視点で考え、未来のお客さまとなる小さなお子さんへの食育が大切になると考えました。

掲げたコンセプトは「未就学児を保育園に預けて食育を行い、親はレストランにおいて料理を楽しむ」というもの。今後は函館短大付設調理製菓専門学校

の知識を蓄えている段階です。そして今後は、分析に必要なアンケート内容の作成、さらには調査を実施し、分析、まとめ、試食会へとつなげていくと動いています。

メンバーの学生たちには、このプロジェクトを通して、学校の中にも、ただで教わるのではなく、身をもって体験し、勉強してほしいと願っています。社会人の方々のふれあいはこれから始まる就職活動はもちろん、社会へ出て行く自分にとってかけがえない経験となり、自分を高めてくれることにつながっていくことでしょう。そして本学の取り組みが社会にひとつでも役立つことができれば嬉しいですね。

おいしいものを食べることは、その人の幸せにつながります。地域の人たちが、いつまでもそんな思いができるような地域づくりに貢献できることを願い、学生たちはこのプロジェクトに熱意を持って、一生懸命取り組んでくれています。



関係各所にご協力いただき、プロジェクトを進めています。

や保育園などにも協力を仰ぎ、調査実験をしていこうと考えています。その調査をもとにレストラン、保育園においての社会実験の実施へとつなげ、最終的にはプロジェクト成果の発表までを目標として進めています。

学生から社会人へと環境が変わっていくと、さまざまな苦労も待ち受けています。大学内から地域へと飛び出していくことで、社会人になった時に役立つ経験がたくさんできます。スーツに慣れたり、名刺交換のマナーを覚えたり、小さなことからしっかりとできていなければ先へはつながりません。

さらに、企画を立てたり、プロジェクトの進行を身に付けていければ、今後、大きな武器ともなります。メンバーにはそういうことを常に意識しながら取り組んでいってほしいですね。



市内のレストランへ行き、料理やテーブルマナーなどについて学びました。



プロジェクトメンバー 石井 優慈くん

社会へ出るとすべてが勉強 この経験をこれから生かしたい

僕はサークルにも入っていないので、何かをやりたいと思っていました。そんな時、このプロジェクトの話を聞いたんです。大学ではいろいろなことを積極的に学びたいと思っていて、今後、何かに役立てていきたいと思ってメンバーになりました。実は、僕はこのプロジェクトのほか、「がごめスイーツプロジェクト」にも参加しています。

「歯がよいはこだてプロジェクト」では、まず最初に歯に関する知識を学んでいきました。実際に話を聞いてみると、歯の正しい磨き方など、自分が持っていた知識とは違っていて驚きもありました。正しい知識を学べたことで、だんだんと興味も膨らんでいきましたね。

本プロジェクトの学生メンバーは僕を含めて三人なのですが、元々仲の良い人が集まったため、楽しみながら進めています。定期的に行っている会議の場でも、お互い遠慮がないので、さまざまな意見が飛び交い、とても良い雰囲気の中で取り組んでいます。



プロジェクトメンバー 梅木 雅広くん

座学では経験できない 貴重な体験が楽しい

元々、僕は大学に入ったら授業を受けただけではなく、何かをやってみたいという気持ちがありました。そんな時、大学から声をかけていただいたのが、この「三つ星レストランプロジェクト」でした。僕は料理を食べるのも作るのも好きなほうなので、「函館に三つ星レストランとは面白そうだなあ」と思い、プロジェクトメンバーになることを決めました。

しかし、プロジェクトが始まる前は、学生が主体となって取り組むプロジェクトであるため、正直、「自分でできるのだろうか？」という不安がありました。それでも、地元函館出身者として、プロジェクトを成功させることよって地域振興に少しでも役立てたら嬉しいと思い、前向きに取り組んでいこうと思っています。

僕らが取り組んでいるプロジェクトでは、レストランを中心とした食育活動の推進を目標としています。そこで、食育のことを調べる前に料理のこと、テーブル

現在は歯や食事に関することを勉強するため、関係各所にご協力いただき、勉強会を行っている段階。これからは得た知識をもとに、アンケート調査などを行う予定です。試食会に向けてやらなければならぬことが山積みですが、この「ひとつの経験が次へと生かされる」という思いで取り組んでいます。

このプロジェクトに参加させていただいたおかげで、普段はあまり関わる機会がない社会人の方と関わることができました。名刺交換ひとつをとっても、経験しなければ分からないことがたくさんあることを知り、とても勉強になっています。コミュニケーション力もこれまでに比べて身に付いてきたと実感できていますので、何事にも積極的に自分から動いて、自分を磨いていきたいですね。



まずは歯に関する知識を蓄え、それをメニュー作りを生かします。

マナーやワインについて、さらには子どもが好きなお菓子など、さまざまなことを学ぶために、函館短大付設調理製菓専門学校へ話を聞きに行ったり、自ら体験したりしています。

僕らのプロジェクトは、他のプロジェクトに比べてスタートが年明けと遅かったのですが、本格的な動きはこれからになります。メンバーは男子学生三人となつていますが、課題が出てきた時には役割分担するのではなく、みんなで話し合っ

て答えを出しています。大学から外へと出て行くことよって、さまざまな出会いがあり、座学では経験できない、貴重な体験をさせてもらっています。さらに、とても楽しく取り組んでいるので、この経験を無駄にしないよう、やはり結果をしっかりと出せるように今後も取り組んでいきたいですね。



食事に飲み物は付きもの。ワイン店でも勉強会を行いました。

函館大学の教育&オープンキャンパス

すぐれた教育システムと就職に強い函館大学



入試部長・教授
田中 浩司

本学の最大の特長は、特色ある教育システムと、学生による活動や研究をさまざまな形でサポートする充実した支援体制にあります。

本学は、早くからアクティブラーニングと呼ばれる先進的な教授・学修手法を採用し、大手進学予備校河合塾による調査でも高い評価を得てきました（『日本経済新聞』2011/2/21）。この手法による「商学実習Ⅰ・Ⅱ」（1・2年次）などでは、学生による地域研究や商品開発などのビジネス実践といった成果を数多く生み出し、新聞、NHKニュースなどにも取り上げられ、注目を集めてきております。また、今年4月には、地域の企業・市民、観光客との協働的な研究・交流の場として、ベイエリアにサテライト・オフィス

を開設し、学生の研究活動をより積極的にサポートする体制になりました。

本学は、『週刊ダイヤモンド』（2011/12/1）の特集号で、「就職に強い大学ランキング」全国総合98位（全国548大学中）を獲得しました。この順位は、北海道内限定では第3位、道内私大ではトップであり、本学の就職実績の高さを裏付けるものと言えます。

このように、本学のすぐれた教育システムと、高い就職実績は、マスコミからも注目され、高い評価を得るにいたっております。

平成26年4月入学生の入試制度は、昨年度と変更はありません。高校生向けのAO、試験、センター試験利用、推薦の4つの入試カテゴリと、それ以外の方向への編入学、社会人・シニア入試です。

オープンキャンパスと入試相談会で本学を知る

今年度は、本学主催の受験生向けのイベントとして、2回（8/3と9/28）のオープンキャンパスと、5回の入試相談会を開催します。

オープンキャンパスでは、本学の教育・キャリアサポートの特色や学費・奨学金の説明、商学系・英語系に分かれたミニ講義、施設見学などのプログラムがあり、本学の最新情報がわかります。当日は、グループに分かれ、各グループに教職員と在学生がついて対応しますので、教職員や在学生の生の声も聞くことができます。

また、当日同伴された保護者の皆様には、受験生とは別に、カリキュラム・時間割・学年暦からみた4年間の大学生活のイメージ、奨学金や学費などについて、情報提供をさせていただきます。個別の相談コーナーもありますので、ご利用ください。このほか、希望者の方には、当日学食で昼食を楽しんでもらう「無料ランチ体験」も行っており、ご好評をいただいております。

オープンキャンパスの日に都合がつかない方や、もっと詳しいことが知りたい方には、入試相談会（本学）がありますので、どうぞご利用ください。

本学での入試相談会も難しいという方には、函館、青森、岩手、秋田などの各都市で開催されている業者主催の進学相談会

にも本学も参加しておりますので、お近くの会場にお越しいただければと思います。会場などの詳細は、本学入試課に電話でお尋ねいただくか、本学HPをご参照ください。

じっくりと本学のことを聞いて、内容を自分の眼でたしかめて、本学を選んで欲しいと思っております。内外から高く評価されている本学の教育システムと、充実した学生サポート。本学で思う存分に、学修・研究に、クラブ活動に打ち込んで有意義な学生生活を過ごし、納得のいく就職を勝ち取ってほしいと思います。



商学実習Ⅰ・Ⅱ テーマ一覧

平成24年度(昨年度) 商学実習Ⅰ テーマ一覧

若松 裕之 教授

「函館に遊園地を作ったら」
松本 理歩、三ヶ田 隼人、村山 諒
「カップラーメンに関するアンケート調査」
山内 武、山内 亮、山田 雄太、山田 勇斗
「湯の川温泉のホテル・旅館の意識調査」
吉田 和央、吉田 和生、吉田 奈央、若山 翔哉



田中 浩司 教授

「函館公園内の「こどものくに」を盛り上げるために」
テキ セイホウ、永井 将人、中川 美生、中澤 さおり、長澤 龍巳
「新しい函館のおみやげの考案」
奈良岡 智明、名和 悠司、新岡 嵐士
「他地域で売られている函館おみやげの調査」
西山 佳登、根本 美久、羽貝 広大、長谷川 敦士

津金 孝行 准教授

「よつ葉のレシビ(バン屋)店舗販売の研究」
田上 啓太、田上 貴裕、瀧澤 恵美、武部 翔太、田中 克史
「よつ葉のレシビ(バン屋)外販(出張販売)の研究」
清野 晃仁、関 琢也、高瀬 健太、高見 勝也
「Heart-Full Cafe with smile(カフェ)の店舗経営の研究」
田中 芽生、網川 雄太、壺井 義明、鶴巻 駿

佐藤 元治 准教授

「五稜郭タワーを活性化するために」
安保 詩織、鈴谷 美咲、井川 一成、石井 葵、岩橋 昂樹
「ラッキービエロに関するアンケート調査」
石井 優慈、梅木 雅広、池田 伸哉、石谷 大輔、伊勢 静弥
「函館の中小企業と函大生の就職に関する意識調査」
厚谷 恵里奈

西村 淳 准教授

「アンジェリック・ボヤージュについて」
上野 那三花、蝦名 美由紀、金澤 裕美
「函館の観光地域にある店舗の営業時間に関するアンケートA」
大倉 育士、大森 祐基、小川 遼、長内 駿也、鹿子島 京美、金久保 太郎
「函館の観光地域にある店舗の営業時間に関するアンケートB」
川口 翔平、川村 和暉、工藤 大、小林 孝嗣、嵯峨 智仁、坂井田 健介

大橋 美幸 准教授

「函館観光・函館ベイエリアアンケート」
平澤 大地、廣崎 達海、古河 一磨、細岡 芽生
「授産施設と企業の連携」
平野 瞳、藤塚 早紀、本村 麻由香、松川 紗季、松村 架那
「Jバスに関する乗客アンケート」
濱村 龍之介、樋口 将俊、松本 芳世、松山 翼

中井 郷之 専任講師

「大門まちあるき」
佐々木 孝太、志村 幸穂、佐々木 翔洋、杉本 諒
「野外劇〜星の町、函館☆」
岸田 彩、進藤 詠亮、杉田 航、佐々木 優希、佐藤 知樹
「函館に関する中国人アンケート調査」
坂野 敬介、佐藤 啓太、佐藤 大樹、佐藤 敏貴、柴田 浩二

平成24年度(昨年度) 商学実習Ⅱ テーマ一覧

若松 裕之 教授

「電気自動車の普及のために」
上田 真理子、田崎 美和
「函館に大型書店は可能か」
山崎 翔平、渡邊 久輝
「ガゴメ昆布に関する調査」
井 翔平、大友 皓香、奥浜 真隆、脇坂 光太



田中 浩司 教授

「函館観光の活性化に関する研究—観光スポットにカメラ台を置くと—」
安藤 弥、田村 清司、徳正 健太、吉田 圭佑
「アミューズメントバスの提案」
長橋 夕貴、波 賢人、成田 翔伍

寺田 隆至 教授

「再論:何故、函館にはSCが少ないのか?—道内5都市の比較研究から—」
小林 将也、高橋 瑞樹、高谷 直樹、筑田 恭史、三浦 将太、三島 総一郎
「ラッビのような店は他にどこか?—ご当地バーガー店の競争戦略の比較—」
高藤 佑地、長尾 勇武、野澤 烈、福士 広大、張 星
「伸びている温泉観光都市はどこか?そして何故か?—全国主要28都市の考察—」
阿部 桃子、小山西 翔人、姫若 秀尚、堀籠 晃太

大橋 美幸 准教授

「虐待に関するアンケート調査」
和泉 明日香、古川 ななみ
「認知症介護家族インタビュー調査」
高橋 純、早坂 倫、藤本 剛大、堀切川 春樹、力石 真嘉

佐藤 元治 准教授

「函館空港に関するアンケート調査」
神田 和暉、齊藤 流次郎、齋藤 宏二郎、小宮 稔真
「函大生のファッションに関するアンケート調査」
古部 志歩、濱林 薫、堀井 翔太、福原 啓恵
「ラッキービエロに関するアンケート調査」
葛西 将尚、小滝 憂太郎、田村 健、畠山 瑞生

西村 淳 准教授

「函館夜景アンケート調査」
伊丹 創、遠藤 要、近江谷 沙都美、佐々木 紀之、佐藤 祐太、佐藤 佑好、平岡 亮
「函館新幹線開通に関するアンケート調査」
菅野 宏一、日當 勇輔、舟橋 勇、宮西 和哉

津金 孝行 准教授

「イカ加工食品の市場拡大に関する研究—イカ飯の商品開発を中心に—」
佐藤 杏介、澤谷 純也、新明 巧、鈴木 亜衣、村上 健太、山田 潤

隅田 孝 専任講師

「全国展開型CVSと地域密着型CVSの比較調査」
木村 政俊、鶴地 貴之、小坂 周、齊藤 詩織
「北海道新幹線開通に関する函館市民の意識調査」
小田島 優、熊城 基實、小沢 彩花、南坪 英里子、黄 一凡
「函館山から見た新イルミネーションによる新たな客層の開拓に関する調査」
荒木 直人、木村 茜、柴崎 裕次、田名辺 麗

苦しむ人を救うため。やりがいを持って

私は製薬会社のMRとして入社しました。MRは医療情報担当者といい、企業を代表してお医者様方、医療関係者様方に自社の医薬品の安全性や有効性等の情報を提供、収集するお仕事です。

扱う商品(医薬品)が患者様の生命に直接関わるものなので、高い専門性と豊かな人間性を養う必要があります。そのため、9月までの約半年間、研修があります。今は、一日中講義があり、毎日約10時間は勉強し、大変だなと思うことがありますが、今やっていることはすべて、病気で苦しむ患者さんを救うためだと考えるとやる気が出ます。また研修では、社会人としての基礎力も学んでいます。挨拶は先手必勝、礼儀では、会社は人や社会に生かされているという感謝の心を持つこと、そして忘己利他の精神で常に行動すること等を心掛けております。

今年巣立ったがんばる社会人一年生

今春から新社会人として新たな一歩を踏み出した先輩たち。自身が希望した舞台に立ち、新たなフィールドで活躍しています。



(株)ツムラ勤務
近藤 尚平さん
(北海道登別青嶺高等学校出身)



(株)ザ・ウィンザー・ホテルズ
インターナショナル勤務
矢本 千晶さん
(北海道函館西高等学校出身)

一流のおもてなしを身につけるため努力

大学を卒業し、社会人としての新たな生活をはじめ2ヶ月が経とうとしています。約2週間の研修ではホテルについての基礎知識、一流の接客等を教わりました。現場に配属されてからも、商品知識をつけるまではお客様の前に立つことはあまり許されてはならず、開店準備や発注作業などの業務がほとんどです。

先日、現場に立ち接客を行っていたところ、同じ日に別々のお客様から「今度は矢本さんに会いに泊まりに来るからね、それまで頑張っていてね」という言葉を頂くことができました。社会人1年目とはいえ、現場に立てば1年目も10年目もお客様にとってはなんら変わりはありません。プロフェッショナルの一人なのです。そのことを改めて気付かされた言葉であり、より一層この仕事を好きになる言葉でした。

そう言って頂いたお客様のためにも、一日でも早く一流のおもてなしを施せる人間になることを誓い、限界を決めずに突き抜けていきます!

インターンシップ体験



商学科4年
伊藤 聡志くん
(盛岡商業高等学校出身)

インターンシップ体験から学んだこと

ネットヨタ函館のインターンシップでは、企業研究、礼儀作法を学んだり、業務体験などをしてきました。ハンを押すだけの簡単な仕事から、実際に会議で使う資料の計算、作成、お客様の車の洗車などの貴重な経験もさせて頂きました。

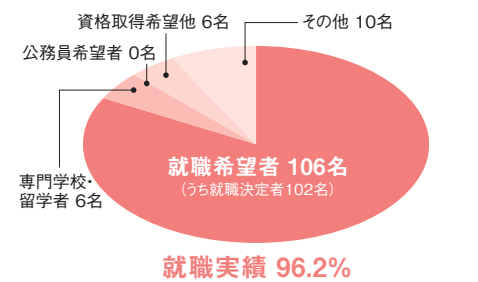
その中で、「社会人」というのは当たり前のことを当たり前出来る人のことだと感じました。時間にルーズになってしまったり、私物管理ができなかったり、お礼、謝罪、朝昼晩の挨拶、報告・連絡・相談ができなかったりと、学生生活でたんでいた悪い習慣をこのインターンシップで再度見直すことができました。

僕は部活動にも所属していますし、2年以上のアルバイトの経験もありますが、やはり所詮バイト。任せられた仕事をこなすだけです。責任もそこまで問われません。

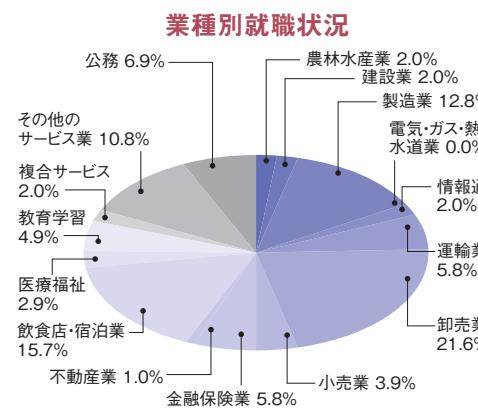
大切なことは勉強ができることではなく、自分の役割を瞬時に判断してTPOに応じた的確な仕事ができること。もっとたくさんの人と接して、たくさんのことを体験して、幅の広い状況判断力の高い人間になりたいと思いました。

インターンシップというものは社会人とは何かを知ることができて、その企業の内側を見ることができるチャンスです。就職してからいろいろなことに気づかなくて済むように、たくさん企業のインターンシップに参加することをお勧めします。

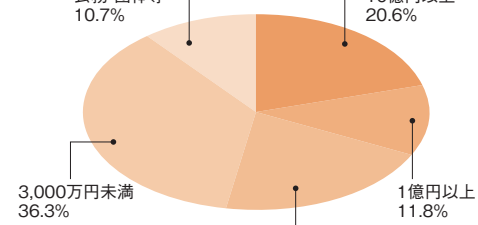
進路状況



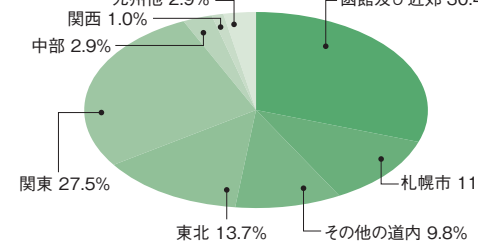
就職実績 (2013.3月卒業生)



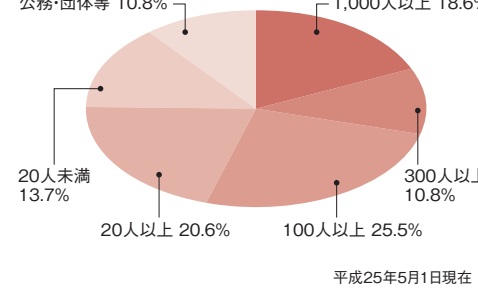
資本金別就職状況



地域別就職状況



従業員数別就職状況



就職部長
兼キャリア開発センター長
教授 永盛 恒男

就職部 平成二十四年度就職実績

充実した就職支援・指導により、前年度を上回る実績

平成二十四年度も企業が学生を厳選するという傾向が続いていました。「良い人材がいれば採用を考える」という状況の中にあつて、本学の平成二十四年度の就職実績は、前年度を上回る九十六・二%という高い数字を達成することができました。しかし、企業の厳選化傾向は今後も続くであろうと予想されます。そのため大学側は、その傾向に対応できる学生を育てていくことが求められるでしょう。そこで本学では、就職に向けた様々な事業を展開しています。

まず二つ目は、学生への実践教育です。十二月に企業の人事担当者を迎えた「就職模擬面接研修会」を実施し、採用のポイントや受け答えの仕方、面接指導を含めて就職活動に役立つ具体的な実践教育を、丸二日かけて行っています。

二つ目は就職担当教職員が学生に向けて行う報告会です。年間約百五十社の企業訪問を行い、収集した情報を就職ガイダンスの中で報告することで学生の就職活動を展開しやすくしております。

そして三つ目が就職講座の開催です。三年生には就職ガイダンスを年間十八回、二年生はキャリアガイダンスを六回実施しております。その中には職業・職種セミナーとして、さまざまな企業の第二線で活躍している本学OBを招き、「仕事とは?働くとは?」などということな話を話していただきます。さらに例年十二月に

開催している業界研究会では、五十社以上の各企業の人事担当者に来ていただき、学生が直接担当者に事業内容や採用情報などの話を聞く有意義な場も設けています。

また、三年次の前半には、ゼミの担当教員が学生一人一人に対してきめ細かい就職支援を行っているほか、キャリアスタッフによる面接指導、履歴書、エントリーシートの書き方指導なども随時行っています。

キャリア開発センターでは、就職に関する資料の収集・開示、就職相談を行うっており、学生がキャリアデザインを早期から描くことができるような適切な指導・助言を行っています。社会情勢に対応しながら、学生の「なりたい

TOPICS

昨年度の実績を上回ることができたのも、学生と教職員の努力と各企業のご支援の結果であると考えております。

[内定をいただいた主な優良企業]

- (株)ザ・ウィンザー・ホテルズインターナショナル
- 北海道旅客鉄道(株)
- (株)ツムラ
- ダイハツ工業(株)
- 教員5名を輩出

自分」を応援、一助となるよう、今後ともスタッフ一同、各種事業に取り組みしていきます。

北海道 札幌あすかぜ高等学校



吉田 奈央さん(2年)

私の母校である札幌あすかぜ高校は平成二十二年まで札幌福北高校であったが、兄弟校である札幌福西高校と合併をし、札幌あすかぜ高校という学校になりました。札幌あすかぜ高校は普通科ですが「フィールド」というコースのよ

また体育祭、文化祭の他にもマナスマンという伝統的な行事もあつたり、学年行事などもありました。マラソン大会などで辛いこともありましたが、その分楽しい行事もあつて、先生を含め一致団結する機会が多くありました。

その他に部活動も体育会系、文化系ともに全国大会に出場している部があり、私も高校時代はソフトボール部に所属していました。私はそのほかにも少林寺拳法もやっ

興味・関心の高い科目を選択できるフィールド制



「未来(あす)を拓く主体性を伸ばし、次世代社会を担う人間を育む」を学校教育目標に掲げている。特色は北海道独自のシステムである普通科フィールド制を導入し、生徒が自分の興味・関心、進路目標に応じたフィールドを選択し、進路目標に合った学習ができる。2学年では「科学フィールド」「一般教養フィールド」の2つ、3学年では4つのフィールドに分かれる。

北海道札幌あすかぜ高等学校

創立:平成23年
北海道札幌市手稲区手稲山口254番地
TEL.(011)694-5033 FAX.(011)694-5074

青森県 野辺地高等学校



澤谷 純也くん(3年)

私の母校である青森県立野辺地高等学校は、今年で創立八十八年を迎える県下有数の伝統校です。設置学科は普通

ることの大変さや仲間の大切さを改めて知ることができました。また、部活動も運動部、文化部ともに盛んで、多くの好成績を残しています。中でもハンドボール部やスキー部は県内でももちろん、全国でも輝かしい成績を残しています。

私の野辺地高校での三年間は、毎日が部活に勉強に大変忙しい学生生活でしたが、すばらしい先生方、たくさんの仲間を支えられ、充実した時間を過ごすことができました。そして成長することができたのが野辺地高校だと思っています。

自己を高め、将来の夢や希望に突き進む



「生徒一人一人の可能性を最大限に引き出す教育活動」を基本方針に掲げ、地域社会に貢献できる人材育成に努めている。生徒は「伝統と誇りを胸に、輝け野生」をスローガンに、夢実現に向け、勉強や部活動に取り組んでいる。コースはスポーツ技能向上を目指すスポーツ科学コース、資格取得で多様な進路に応える総合コース、難関校を目指す進学コースがある。

青森県立野辺地高等学校

創立:大正15年
青森県上北郡野辺地町字松ノ木106番1号
TEL.(0175)64-2266 FAX.(0175)64-8011

富山県 高岡商業高等学校



小川 遼くん(2年)

私の母校である高岡商業高校は、創立百十六周年を迎える伝統ある高校です。流通経済科、国際経済科、会計科、情報処理科の四つの学科があり、それぞれが特色を持った学科となっています。

おり、全国商業高等学校協会主催検定試験などの各種検定一級取得を目標に、日々の学校生活を送っています。そして高岡商業高校は就職率・進学率が共に高く、生徒の進路に対する先生方の取り組みは、私たち生徒にとっても励みとなりました。喜びや辛いことも共に、常に生徒と同じ目線で接してくれる、学校と地域が一体となって生徒一人ひとりの力になってくれる学校です。

部活動では文化系、運動系ともに盛んで、多くの部活動が各大会で好成績を修めています。当時私も、ソフトテニス部に所属し練習に打ち込む毎日を送っていました。その中で、学校の先生や地域の方からの叱咤激励を受け、本当に恵まれた環境で成長させてもらったなと感じています。また、検定取得にも力を入れて

私はこの学校で出会った素晴らしい先生方、仲間たちに大変感謝しています。高岡商業高校は人の温かさが溢れたとても素晴らしい学校です。私は私の母校は高岡商業高校です！と自信を持って言えるほど、母校に誇りを持っています。これからも「高商魂」を胸に様々な困難に立ち向かっていきたいと思っています。

伝統があり、高い各種検定合格率



教育目標(校訓)は「健康で明朗、教養豊かな人となれ。」「誠実で他人とよく協調できる人となれ。」「勤労を愛し、責任を重んずる人となれ。」。流通経済科、国際経済科、会計科、情報処理科の4つの学科がある。また、生徒一人ひとりが出資し、平成17年に開業した模擬株式会社では「課題研究」という授業を活用し、商品開発から販売まですべて生徒が行っている。

富山県立高岡商業高等学校

創立:明治30年
富山県高岡市横田286番地
TEL.(0766)21-4319 FAX.(0766)22-4479

北から南から

出身校紹介

秋田県 十和田高等学校



大森 祐基くん(2年)

十和田高校は昨年、創立七十周年を迎えたとても伝統のある学校です。校訓は「純・剛・忍」。十和田高校は平成十年度に「エコハイスクール」という取り組みを宣言し、生徒全員が様々な活動を通して、環境に優しい学校づくりを目指しています。

本人の進路希望を考慮したコース編成



校訓は「純・剛・忍」。進学希望者対象の文理コース、就職・進学希望者対象の総合コース(ビジネス系・情報系)がある。生徒一人ひとりを大切に。きめ細かな教育を目標とし、3年間を見通した進路指導計画のもと、さまざまな指導を行っている。また、他校ではあまり見られないエコ委員会活動があり、学校、地域が一体となって環境保護に取り組んでいる。

秋田県立十和田高等学校

創立:昭和18年
秋田県鹿角市十和田毛馬内下字野9
TEL.(0186)35-2062 FAX.(0186)35-2272

す。そして環境保護の二つの手段として、十和田高校では「ゴミ減量化」を提案しています。いままでの成果としては、学校祭でのキャップ壁画や環境CM制作、EM石油石鹸作りなどがあり、他校では珍しい取り組みを積極的にしている学校です。

い成績を修めています。十和田高校は普通科ですが商業の授業に力を入れており、おかげで様々な資格を三年間の学生生活の中で取得することができ、自分の強みにすることができました。先生方一人ひとりの指導がとても行き届いていて、とても有意義な学生生活を送ることができました。そして、そんな先生方や三年間の学生生活を共に過ごした友人たちにも感謝しています。

FROM THE WORLD

アメリカ(ハワイ)と中国(天津)からの留学生が 将来の夢を叶えるため、函館大学で学んでいます。

国際化が進む中、大学でもさまざまな国際交流が行われるようになりました。函館大学でも、このニーズに応えるため海外留学制度や短期語学研修制度などを取り入れていきます。そして海外からの留学生も受け入れ、昨年度はアメリカの大学から三名、今年度からは中国の大学から二名の留学生が函館大学で学んでいます。



アメリカ ハワイ・パシフィック大学から、 日本語の上達を目的に、 日本語の上達を目的に、 日本語の上達を目的に、

ステイブ・クリストファー・ネグレルさん、
アリス・マイル・マジュー・ビンガムさん、
ニコラス・マシュー・ビンガムさん

話せる日本語を習得し、
将来に生かしたい。

ステイブ・クリストファー・ネグレルさん
アリス・マイル・マジュー・ビンガムさん



ハワイからの留学生、左からステイブさん、アリスさん、ニコラスさんの三人。



「日本をもっと知れたかった」と話すステイブさん。

三人が函館大学に留学生として来たのが昨年九月。今年の夏までの約一年間、ここで日本語の上達を目指します。

「子どもの頃は侍や忍者、中学に入ってから日本の文化にも興味を持ち、もともと日本のことを知りたくて留学しました」とステイブさん。そしてニコラスさんが日本語に興味を抱いたきっかけもステイブさんと同様「僕も子どもの頃にたたくかきもステイブさんと同じように思っていました。」



「就職をして、10年くらいは日本で暮らしたい」と話すアリスさん。

から忍者とかが好きでした。そして、世界の言葉に興味があつて、最初に日本語を学ぶのがいいかなと思つて話します。

「万、アリスさんが留学を考えたいときは、日本のアニメを見ていたことなんでしょう。」「字幕で見ると好きではなかったのですが、日本語が分かればいかなと思つてたんです。最初は留学までは考えていなかったけれど、もともと日本人の人と話せるようになりたくて」と語ってくれました。



「英語の先生になることが目標」と話すニコラスさん。

そんな三人は、毎週月曜日から金曜日までの毎日、日本語の授業を受けています。ハワイと日本の大学の違いを聞いてみると、ステイブさんは「こちらはたくさん宿題を出されるので大変」と笑いながら話します。

中国



中国・南開大学浜海学院からの 二人の留学生は、 大学院への進学を目指す。

王钰(オウ・キョク)さん、衛薇(エイ・ビ)さん

ここでも、
身に付けられないことを、
しっかり学びたい。

中国・南開大学浜海学院で日本語を専攻する王さんと衛さんは、今年四月、留学生として函館大学にやってきました。二人の留学期間は二年間。先に留学している先輩たちに負けないよう、勉学に励んでいます。

日本のアニメがきっかけで日本に興味を抱き、大学に入ってから本格的に日本語の勉強を始めた王さんは、「日本人が話す日本語

FROM THE WORLD



「函館大学では興味をかき立てられる授業がいっぱいです」と話す王さん。

計の仕組みは違うので、とても興味があります。でも、授業中は電子辞書が欠かせません」と笑います。そんな二人が日本の大学で授業を受けて感じたことは、学生と先生との距離感の

を勉強したいと思つて留学を決めました」と話します。そして衛さんは「親から離れ、自分の力で生活したいと思つたこと、日本の文化と日本人の考え方を知らたくて」と、留学の目的を話してくれました。

王さんが函館大学で学んでいるのは、日本語のほかマーケティング関連。そして衛さんは日本語のほかに会計と簿記を学んでいます。「マーケティング総論や経営学総論などの授業はとても興味があります」と話す王さん。衛さんは専攻する会計の授業は学ぶことが多く、「中国と日本の会

近さなのだそう。日本の学生は自分の意見を自由に先生と交流しています。先生もサービスピッチが旺盛な印象を受けました。そして慣れない国での生活は、先輩方の存在がとても大きい様子。一緒に食事をしたり、授業で分からないことを教えてもらったり、さらには生活習慣の違いなど、アドバイスを受けているのだとか。

考えている二人。衛さんは北海道の他のまち、そして王さんは東京や大阪にも行ってみたいと目を輝かせます。そのために、今はバイトも探しているそうです。「生活費を稼ぐだけでなく、バイトをしていれば、学校以外での交流も広がるから」と前向きです。



「日本に留学したくて南開大学浜海学院に進学しました」と話す衛さん。

王さんと衛さんは夢を叶えるために、函館大学で大切な二年間を過ごします。

●おふたりの将来の夢は?

王さん まずは大学院に進学し、マーケティングをしっかり勉強して管理職に就きたいです。車が好きなもので、自動車関連の企業に就職して、まずは現場で経験を積み、それを生かして管理者になりたいと思っています。就職は日本でしたいですね。

衛さん 私まずは大学院に進学して、その後、日本で会計士の資格をとりたいたいです。そして、会社に属するのではなく、フリーの会計士として仕事をしたいですね。働き始めたら中国から両親を呼んで、日本で一緒に暮らしたいと思っています。



再来年の三月まで留学生として函館大学で学ぶ王钰(オウ・キョク)さんと衛薇(エイ・ビ)さん。

函大 ing

CLUB TOPICS

函館大学では体育12クラブ、文化7クラブが活動しています。函大の元気を内外に発信。

ハンドボール部

チームづくりを進め、守って速攻で全国で勝つ

北海道内では無敵を誇り、今年北海道学生ハンドボール春季リーグ戦にも優勝した函大ハンドボール部。同リーグ戦の連勝記録は263まで伸びました。目指すスタイルは「守って速攻」です。キャプテンの木本 貴将くん(四年生)は、「監督が良く話しているのは」

東いくら」のハンドボール。チームプレーでしっかりとディフェンスし、オフenseは速攻で二点を取りに行く、走るハンドボールを心がけています」と話します。一足すを「プラスアルファにする抜群のチームワークで全国に挑みます。木本くんはキャプテンとして、練習から会話を大切に



キャプテンとして「チームのプラスとなる存在になりたい」と話す木本 貴将くん。

しています。「試合になれば上級生も下級生もありません。練習の時からしっかりと意識疎通を図れるように、部員には会話をしよう」と話しています。しかし、木本くんは負けず嫌いの性格だと言います。「ハンド



目標はインカレでの勝利のみ。チームプレーを武器に上を目指します。

サッカー部

昇格目指し、部員一丸となって戦います

平成二十三年度から部としての活動を再開し、昨年度からは北海道学生リーグ(三部)にも参加している函大サッカー部。現在、部員数は十九名となり、チームワークを重視したチームづくりを進めています。キャプテンの尾辻 凌くん(四年生)は、「部員同士の仲はすごくいいですね。どちらかと言えば、和気あいあいといった雰囲気です」と話します。



二部昇格を目指し、一丸となって練習に励んでいます。

同部の練習は授業が始まる前の平日、週二回の朝練。週末は練習試合が中心となり、バスやトラップなどの基礎を磨きながら、連携プレーも取り入れます。そして練習試合は高専や他大学、社会人



キャプテンとしてチームをまとめる尾辻 凌くん。

チームと行っているそうです。昨年の北海道学生リーグでは七チーム中四位という結果でしたが、今年の目標はズバリ二部への昇格です。「後輩たちのためにも三部で優勝し、二部との入れ替え戦まで駒を進めたいですね。ただ、負い過ぎず、リラックスしながら戦いに臨みたいと思っています」。これから始まるサッカー部の新たな挑戦。みなさんも応援してください。

硬式野球部

目標は高く。今年は「厳しさ」をテーマに。

「他の強豪校に比べると、伸び伸びできる環境のクラブでしょうか。でも、去年はそれが悪い方向に出してしまったのかもしれない」と、昨年一年を振り返ったキャプテンの木下 龍佑くん(四年生)。「昨年度は北海道六大学野球では、春季、秋期リーグとも三位。惜しくも全国大会への出場は叶いませんでした。そこで今年は「厳しさ」をテーマに掲げ、日々、練習に励んでいるそうです。「練習中も試合を想定して取り組んでいます。試合では

練習通りにできるように、その意識を高く持っています」。そんな函大硬式野球部は、監督やコーチと選手との距離感も近く、コミュニケーションも活発なのだ

そうです。「監督も何かあったら言ってくれと言ってくれます。選手間もプライベートで先輩と後輩が一緒に遊んだり、仲は良いですよ」。この信頼関係とコミュニケーションが同部の強みともなっています。打線では上位の番か二番を任せ、守備ではセンターを守る木



「自分が出塁し、得点を生む流れを作りたい」と話す、キャプテンの木下 龍佑くん。



試合でも練習通りのプレーを心掛けています。

下くん。小学生から野球を始め、高校生になると結果が出る楽しさを知ったそうで、その気持ちは今でも変わりません。「全国大会に出場して、一つでも多く勝ちたいです」と、目標を高く掲げます。部員一同、昨年の悔しさを胸に、今年再びリーグ制覇を狙います。



監督、コーチ、部員一丸となって全国大会を目指します。

ローターアクト部

地域貢献・社会奉仕を通じ、リーダーとなる人材を育成

道内の大学で部活動として活動しているのは、函大だけとなるローターアクト部。地域貢献・社会奉仕などの活動を行い、さらにリーダーシップを育てる人材育成を目的として活動しています。昨年末に会長を任せられ、部員をまとめているのが館谷 美咲さん(二年生)です。「以前からボランティア活動をしたいと考えていて、活動内容が私のやりたかったこととなりフィットしていたため入部しました」。



24時間テレビのチャリティー募金活動の様子。海開きに合わせ、毎年、熱帯植物園前浜で海岸清掃を行っています。



「学内では毎週金曜日のお昼休みを利用して会議を行っています」と話す会長の館谷 美咲さん。

同部は函館東ロータークラブを提唱クラブとして持ち、共同で地域活動を行うほか、独自の活動も行っています。「昨年まではあまり活動ができていませんでしたが、今年度は企業に協賛いただき、海岸清掃の規模を広げるほか、新たな活動も計画しているそうです。「老人ホームへの慰問、さらには絵本を集めて幼稚園へ寄附することも考えています。活動の場を広げていきたいですね」。

CAMPUS REPORT

短期語学研修制度座談会

語学を学び、さまざまな文化に触れる貴重な体験

函 館大学では海外姉妹校への「海外留学制度」、「短期語学研修制度」を設け、学生たちに豊かな国際経験をサポートしています。今年二月十四日から三月二十四日まで、オーストラリアへの短期語学研修を経験した学生たちに、留学した目的や期間中の生活などを聞きました。

●短期語学研修を希望した理由・目的は？

徳正くん「僕は入学する前からこの制度があるのを知っていて、それが函館大学を選んだ理由のひとつでもあったんだよね」

根本さん「私は長期留学を考えていて、その前に慣らしのような感覚で経験してみたいと思ったんだ」



語学以外にも学ぶことが多かったと話すみなさん。

平野さん「私もそう。それで先輩に話を聞いたら、まずは短期を経験したほうがいいよと言われて。それと、日本では分からない価値観の違いなども学べると思ったから」

藤塚さん「それはあるよね。私は将来、空港のグラウンドスタッフとして働きたいと思っていて、中学生の頃から海外留学したいと考えてたんだ。そのために、語学をしっかり身に付けたいと思って」

本村さん「将来像がしっかりしてあるね。私は高校が英語コースで、イギリスに語学研修で行ったことがあったんだ。で、更なる語学向上の機会だと思ってる」

松村さん「何か、みんなに言われちゃって話すことがなくなっちゃったな(笑)。実は私も函館大学に進学した理由のひとつが、この語学研修だったんだ。自分の視野を広げたいと思って行ってきました」

●留学を経験して良かったと感じたことは？

松村さん「リスニング力が伸びてきたと実感できたことかな。それと、他の国から来た留学生にいい刺激をもらった」

本村さん「たくさん友達もできたよね。中国語やアラビア語など、いろいろ教えてもらって、言葉が通じて笑いがあつたのは嬉しかった」

藤塚さん「私はバイトしている店に外国人のお客さんが来るんだけど、英語で接客する積極性がついたかな」

平野さん「私も藤塚さんと同じ。バイト先で外国人のお客さんを接客したら、「あなたがいて良かった」と言ってもらえて嬉しかった」

根本さん「外国で生活していて、日本の良さがたくさん見えてきたかな。ご飯が美味しいとか(笑)」

徳正くん「僕は逆に、災い転じて福となすかな。自分ひとりで行かなくて良かったので、いい経験をさせてもらったよ」

新入生歓迎イベント

新入生の不安を解消。友達を作るきっかけに

初 めて迎える大学生活。新入生の不安や緊張を解消しようと、昨年度に初めて開催したのが「新入生歓迎イベント」です。この企画は学友会が主催し、今年四月八日に行われました。そこで、主催者である学友会メンバーに感想を聞いてみました。

●イベントはどのような内容で行われたのですか？

金澤さん「学校内の教室を知ってもらうために、各教室にスタンブを置き、ラリーを行いました」

佐藤くん「このスタンブラリーでは、ただ回るだけではスタンブをもらえないよう工夫しました。上級生とゲームをしたりして、勝ったらスタンブをもらえとか」

志村さん「お昼のメニューも趣向を凝らしました。新入生の中には函館出身以外の人も多いため、ハセガワストアの焼き鳥弁当、ラッキョーピエのオードブルを用意しました」



実行委員会のリーダーとして、みんなをまとめた佐藤 杏介くん。

●どのような思いでイベントの企画・実施に取り組んだのですか？

志村さん「私自身、昨年は新入生として参加したのですが、おかげで良い学生生活をスタートできました。今年の新入生にも同じように楽しい思いをしてほしいと企画・実施に取り組みしました」

金澤さん「私も昨年度は新入生側の立場でした。友達ができるか不安に思っていた中、このイベントでいろんな地方から来ている人たちと話ができ、友達ができました。また、上級生や教職員の方とも触れ合え、大学に早く馴染むきっかけにもなったので、新入生に楽しい学生生活を送ってもらいたいと思って」

廣崎くん「僕も同じ。学生生活が刺激をもらった」

本村さん「たくさん友達もできたよね。中国語やアラビア語など、いろいろ教えてもらって、言葉が通じて笑いがあつたのは嬉しかった」

藤塚さん「私はバイトしている店に外国人のお客さんが来るんだけど、英語で接客する積極性がついたかな」

平野さん「私も藤塚さんと同じ。バイト先で外国人のお客さんを接客したら、「あなたがいて良かった」と言ってもらえて嬉しかった」

根本さん「外国で生活していて、日本の良さがたくさん見えてきたかな。ご飯が美味しいとか(笑)」

徳正くん「僕は逆に、災い転じて福となすかな。自分ひとりで行かなくて良かったので、いい経験をさせてもらったよ」

楽しくなる手伝いをしたいと思ってる実行委員会メンバーになりました」

●イベント当日はどんな役割を担っていたのですか？

金澤さん「私は司会進行をやらせてもらいました」

志村さん「私は開会、閉会のあいさつのほか、手伝ってもらった上級生への指示などを行っていました」

佐藤くん「僕は受付のほか、イベント中はトラブルや不都合がないかをチェックするために、会場の見回りを行っていました」

廣崎くん「僕は一階の見回りのほか、昼食の受け取りと準備、イベント終了前の放送などを担当しました」

●イベント当日に感じたこと、終えての感想は？

佐藤くん「前回に比べて新入生の出席率が良くなり、上級生もゲームでは前回以上に楽しんでくれたかなという印象を受けました。その点では前回より手応えを感じた」



司会進行の大役を果たした金澤 裕美さん。



藤塚 早紀さん (2年生)



本村 麻由香さん (2年生)



松村 架那さん (2年生)

感動したなあ

ホームステイ先が「緒だった時、サッカー観戦に連れていってもらったことかな。すごく新鮮で楽しかった」

藤塚さん「私のホームステイ先の周辺には、子どもがたくさん住んでいて、しかもインドやネパールとか海外から移住してきた人が多かったんだ。それで、家にあるプールにいつも子どもたちがやってきて、「一緒に遊んだことが楽しかったな」

平野さん「学校での行事も楽しくなかった？ クラスのみんなとドルフィンウォッチングやサンドボートデイングをしたり。クラスメイトとたくさん話せたしね。あと、みんなで海に行つたのもいい思い出かな」

徳正くん「海は僕だけ行ってないけどね(笑)。僕も子どもたちと遊んだり、プールで利用者の人といろんなコミュニケーションがとれて楽しかった」

根本さん「私はシドニーへ行ったのが一番の思い出。写真でしか見たことがないものを目の前で見られて楽しかった」



平野 瞳さん (2年生)



根本 美久さん (2年生)



徳正 健太くん (3年生)

松村さん「ホームステイ先にはおじいちゃん、おばあちゃんもいて、向かいにはお孫さんがいて、一緒にいろんなところで遊んだことかな」

本村さん「私は瞳(平野さん)と一緒に楽しかった」



イベントを主催した実行委員会のメンバー



たくさん新入生が参加してくれました。

じたので、来年以降も続けていってほしいと思います」

志村さん「前は男女比が偏っていた新入生グループがあったため、今回はバランスを配慮してグループ分けをしました。その工夫もあり、どのグループも盛り上がりつつあったようです。また、出席者にアンケートを書いてもらったのですが、『次は企画する立場になりたい』と書いてくれた人もいて嬉しかったですね」

金澤さん「私は司会をやっていた



「来年はアドバイザー的な立場で関わりたいな」と話す志村 幸穂さん。



「みんな楽しそうでした」と話す廣崎 達海くん。

授業 アラカルト

『経営組織論』

専任講師 中井 郷之先生



「お互いに議論ができる、学生参加型の授業を心がけています」と話す中井 郷之先生。

興味を持ち、集中して学べるよう、参加型の授業を心がけて。

地域の活性化に観光がいかに役立つかを研究する観光論が専門の中井郷之先生は、平成二十四年度から函館大学の教壇に立っています。今年度は、今回ご紹介する『経営組織論』をはじめ、経営学総論、経営戦略論、商学実習Ⅱ、教養ゼミ、さらには卒業研究ゼミのⅠ・Ⅱを担当しています。それでは、中井先生の授業のようすをちょっと覗いてみましょう。

『経営組織論』は、企業経営コースの学生にとっては必修であり、他コースの学生は選択となる科目です。前期の半年間に渡って全十五回行われ、後期の経営戦略論へつながる大切な位置づけとなる授業です。「テキストは石塚浩先生著の本を使わせていただき、組織と制度、組織構造、モチ

ベーション、リーダーシップなど、組織に関連するさまざまなことを学びます」。基本的には企業とは営利活動であり、もともと効果的に人材を組織することが求められます。「例えばどんな企業がどんな組織制度を利用しているのか、さらに時事問題を踏まえながら授業を進

めていきます」。それでは、ちょっと授業を覗いてみましょう。中井先生の授業は、例えるならば落語をやるような感じなのです。本題に興味を持ってもらうため、まずは本題に関連する、落語で言えば「まくら」と呼ばれる話から入り、本題の「ネタ」へとつなげていきます。さらにクイズを出題し、その答えを出席表に書いてもらうなど、学生を飽きさせない工夫が満載です。「人間の集中力というものは、訓練されていなければそう長くは続きません。僕のポリシーは、一方通行ではなく、学生を参加させること。お互いに議論ができるテーマを出したり、学生が参加しやすい授業をするように心がけています」と話します。

情報インテグレーションだけでなく、自分の考えをアウトプットさせ、学生たちの前向きな姿勢を引き出すことに重点を置く中井先生。さらに、学生たちのその後を考えて対峙しています。「本学に通う学生の行き着く先は就職です。より実践的に組織を勉強し

ながら、実社会についても学べるようにして、就職活動の中で応用が効くように授業を作っていきたいですね」。経営に関することだけでなく、社会へ出て行く人間にとって必要なことを身につけることにもつながる『経営組織論』の授業。「社会」というものは、二人以上で形成するものです。さらに具体的に言えば、会社、家族などいろんなグループに属することになります。そのため、この授業が何かしら役立つよう勉強してもらいたいですね」。社会に対応できる、必要とされる人材育成を目指します。



経営を学ぶだけでなく、その後の人生に生かせることを身につけます。

平成25年度の公開講座 教養講座に加え、大学とサテライトで授業公開講座



公開講座実施委員会 委員長
准教授 大橋 美幸

教

養講座は市民向けに大学の図書館や視聴覚室、体育館

で行っています。教員がそれぞれの専門性を生かしてわかりやすい話をいたします。ハンドボール教室は昨年度の中学生に引き続いて、今年度は高校生が対象です。

教養講座

【春期】

●6月15日(土)10時～12時
「簡単な英語を使った函館(日本)ガイド」
壁谷 一広 先生
※英和/和英辞典が必要です

●6月22日(土)13時～15時

「高校生ハンドボール教室」
松 喜美夫 先生

【秋期】

●10月19日(土)10時～12時
「商店街の観光地化プロセス」
中井 郷之 先生
●10月26日(土)10時～12時
「スマートフォン・インターネットで身近になったテレメータ技術の紹介」
津金 孝行 先生

授業公開講座

「簿記原理」

片山 郁夫 先生
函館大学161教室 全30回
9月24日(火)～1月28日(火) / 毎週火曜10:40～12:10、木曜9:00～10:30

「社会学」

大橋 美幸 先生
函館大学254教室 全13回
9月30日(月)～1月27日(月) / 毎週月曜13:10～14:40
※1回だけでも全回でも参加できます

「社会福祉論」

大橋 美幸 先生
サテライト 1日4コマ、全16回
9月7日(土)・8日(日)・14日(土)・15日(日) / 9:00～16:20
※1回だけでも全回でも参加できます

平成24年度 学校法人野又学園 決算書

資金収支計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位:千円)

資金収入の部		資金支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,472,541	人件費支出	1,422,487
手数料収入	33,457	教育研究経費支出	545,229
寄付金収入	1,805	管理経費支出	237,949
補助金収入	727,054	借入金等利息支出	4,708
資産運用収入	56,866	借入金等返済支出	64,264
資産売却収入	181,598	施設関係支出	186,103
事業収入	111,157	設備関係支出	58,385
雑収入	58,235	資産運用支出	194,306
前受金収入	296,128	その他の支出	99,685
その他の収入	203,729	資金支出調整勘定	△166,751
資金収入調整勘定	△405,922	次年度繰越支払資金	342,201
前年度繰越支払資金	251,918		
資金収入の部合計	2,988,566	資金支出の部合計	2,988,566

消費収支計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位:千円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	1,472,542	人件費	1,398,010
手数料	33,457	(内退職給与引当金繰入額)	(19,698)
寄付金	1,805	教育研究経費	766,163
補助金	727,054	(内減価償却額)	(220,935)
資産運用収入	56,866	管理経費	293,027
事業収入	111,157	(内減価償却額)	(55,077)
雑収入	58,235	借入金等利息	4,708
		徴収不能額	3
		資産処分差額	847,590
帰属収入合計	2,461,116	消費支出の部合計	3,309,501
基本金組入額合計	△159,128	当年度消費支出超過額	1,007,513
消費収入の部合計	2,301,988	前年度繰越消費収入超過額	664,994
		基本金取崩額	400,678
		翌年度繰越消費収入超過額	58,159

貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	15,369,853	固定負債	809,592
有形固定資産	(9,593,116)	流動負債	501,061
その他の固定資産	(5,776,737)	負債の部合計	1,310,653
流動資産	495,286	基本金の部	
		科目	金額
		基本金	14,496,327
		基本金の部合計	14,496,327
		消費収支差額の部	
		科目	金額
資産の部合計	15,865,139	翌年度繰越消費収入超過額	58,159
		消費収支差額の部合計	58,159
		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	15,865,139